

資料5

- ・ **感染症分野における途上国展開に向けた研究会について**

-内閣官房-

感染症分野における途上国展開に向けた研究会について

I 趣旨

「国際的に脅威となる感染症対策の基本計画(平成28年2月9日 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議決定)」に基づき、国際的な感染症対策に貢献し、併せて我が国の医療業界等の新たな市場開拓に資する観点から設置された「開発途上国の感染症対策に係る官民連携会議」(以下「官民連携会議」という。)においては、開発途上国における感染症を取り巻く保健ニーズ等に関する情報収集を行いつつ、開発途上国における治療薬・診断薬等の提供可能性やその効果的かつ継続的な提供方法等について、検討・調整を行い、関係機関によるその円滑な実施を図ることとされている。

第1回官民連携会議以降、我が国の感染症に係る医薬品等の開発途上国への提供可能性等について検討するため、途上国において現在発生している感染症情報を収集・整理してきたところであるが、これをさらに推し進めるため、必要な調査を行いつつ、日本企業が感染症に係る治療薬・診断薬等を途上国に展開するにあたっての具体的な課題を整理し、必要な対応策について検討するため、研究会を開催することとする。

II 研究会の位置づけ等

内閣官房が行う平成29年度事業により実施する。また、本研究会で検討した内容については、適宜官民連携会議に報告の上、同会議にて検討することとする。

※ 官民連携会議での議論を踏まえ、必要に応じ、「国際的に脅威となる感染症対策推進チーム」等への報告等を行う。

III 検討のポイント

・ 途上国における日本の既存の医薬品、医療機器(予防関連品含む)、検査診断薬等の展開の課題・対応策について検討する。

※ 医薬品等については、途上国に未展開のものだけでなく、展開済のものも含む。

・ 実態に応じた具体的な課題や対応策を検討するため、特定地域、特定の感染症等に焦点を当てた課題・対応策について、日本製薬工業協会、日本医療機器産業連合会等の民間との協力を得つつ、検討する。検討に当たって、当該地域での調査を行うこととする。(内閣官房が行う平成29年度事業)。具体的には、研究会で検討する。

研究会メンバー

- ◎ (座長) 聖路加国際大学大学院 公衆衛生研究科科長 遠藤弘良氏
- 国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員 磯野光夫氏
- エーザイ アジアリージョン事業戦略部部長 小越健史氏【日本製薬工業協会推薦】
- シスメックス株式会社 学術本部 船越國宏氏【日本医療機器産業連合会推薦】
- 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター インターナショナルトリアル部
臨床研究センター 飯山達雄氏
- 結核予防会 審議役 (国際・学術研究推進・データヘルス計画担当) 竹中伸一氏

その他、研究会での議論を踏まえ、企業（製薬メーカー、医療機器メーカー、卸売業者等）やNGO等必要な関係者から適宜ヒアリングを行うこととする。

研究会のスケジュールイメージ

5月：第1回研究会の開催(以降順次開催)

課題抽出と具体的対応策の検討

(考えられる課題の例)

- ◇ 医薬品等自体の課題
例：価格の問題、製品仕様の問題等
- ◇ 流通の課題
例：代理店の不足の問題
- ◇ 当該途上国に係る課題
例：規制、偽薬や正規外流通品の横行
- ◇ 企業の課題
例：企業が海外展開を進めない理由
- ◇ 現地での医療人材の課題
例：医薬品等を適切に扱える人材の問題
- ◇ 日本の医薬品等により改善の余地が考えられる現地の課題

これらの情報を
ベースに検討

情報収集

文献調査、企業、NGO等からのヒアリング

実地調査

第2回官民連携会議
で提示した感染症情報
ファイル(黄熱病)
を拡充するイメージ

感染症情報ファイルの作成

研究会とりまとめ

報告

報告

2017年
年内(予定)

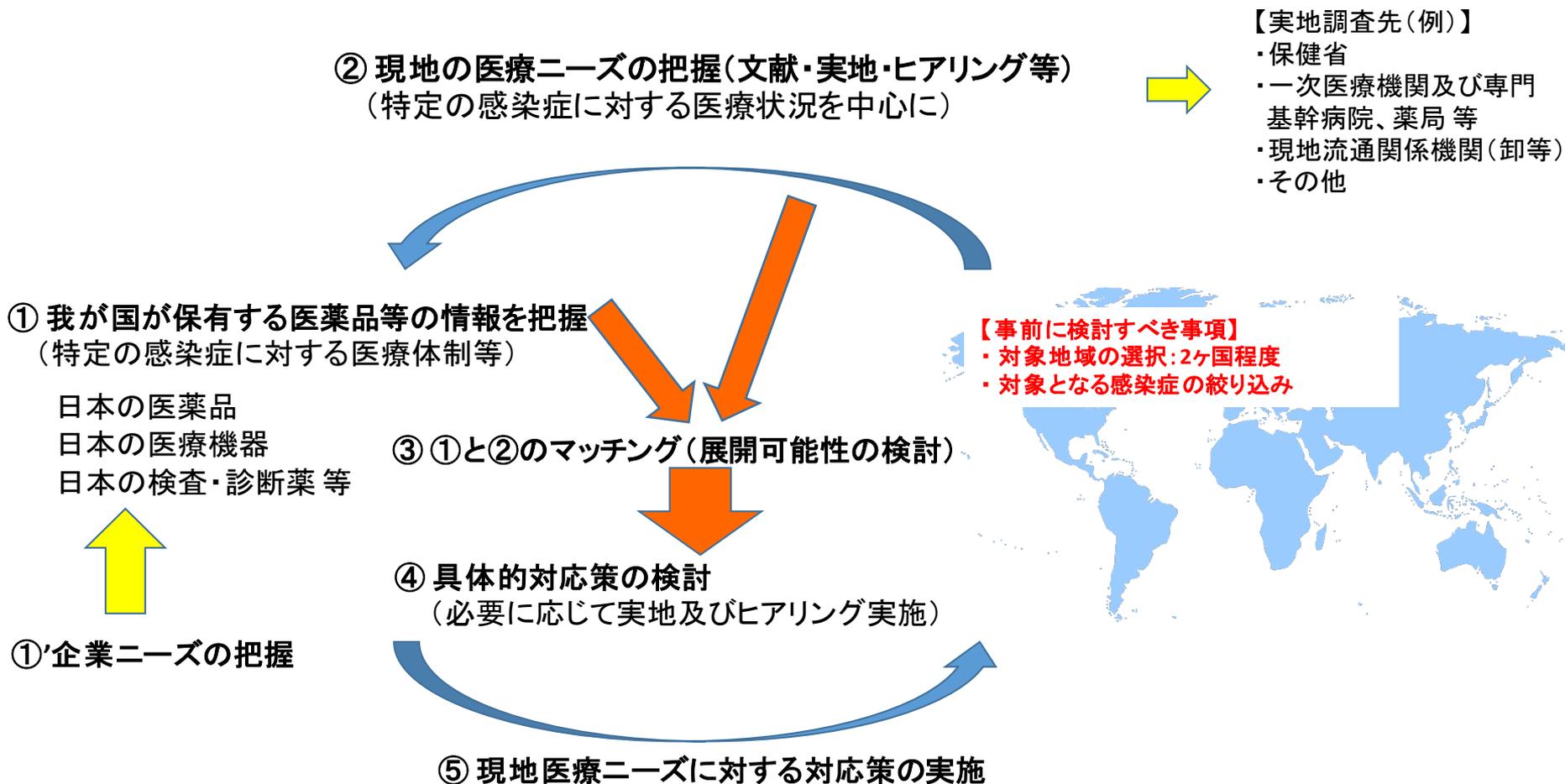
官民連携会議 等

2018年
以降(予定)

具体的対応策の実施

- ・ 感染症に係る防護資機材等の国際標準化に対する戦略的アプローチ
- ・ 複数事業のパッケージ戦略※(例：デラマニド等)等も見据えた検討

研究会における調査及び具体的対応検討の流れ（イメージ）



参考：我が国の医薬品等の具体的な展開事例

① 現地医療ニーズの把握



耐性結核対策で重要な3つのポイント

- Supply Chain
- Monitoring/Surveillance/
Health Information System
- DOTS* (Man Power/System)

* DOTS(Directly Observed Treatment, Short-course : 直接監視下短期化学療法)
疾病の再発及び耐性化を防止するため、患者に目の前で確実に服薬させる支援

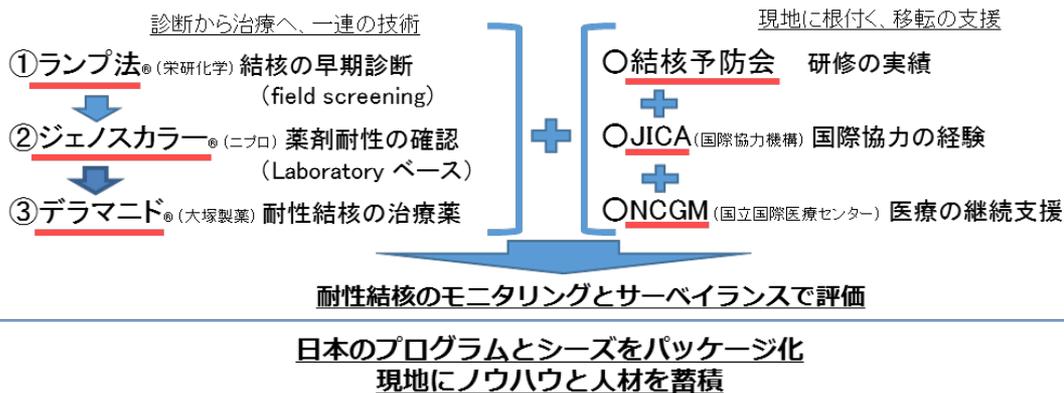
⇒ 結核の耐性化を防ぐには、
早期発見から治療の継続まで、
一連となった患者の支援が重要

② ニーズに対する対応策の検討

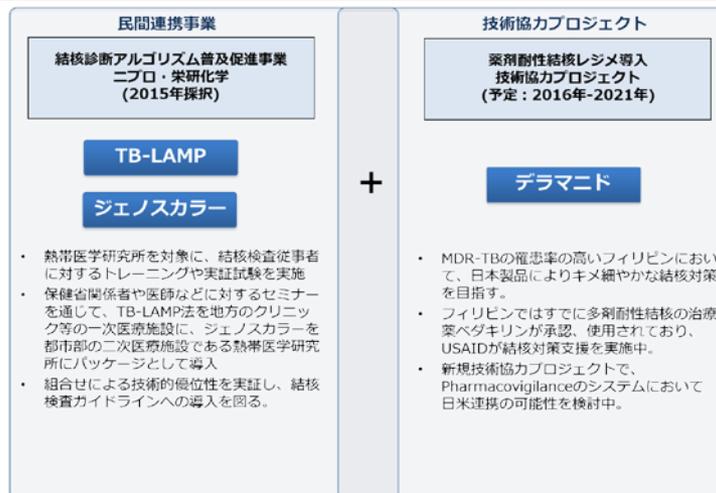
③ 展開に向けた具体的な取り組み

日本発のプログラムを普及させ、耐性結核の撲滅に貢献。わが国に多剤耐性結核が流入することも防ぐ

日本発のプログラム(案)



フィリピンにおける結核対策パッケージの展開状況



政府のpushで「日本発」製品の国際展開の支援を目指す